

施工手順書③-7

インワード枠

片開き戸

↓施工動画はコチラ



ステルス枠 施工手順書一覧

共通

※シリーズ専用以外の共通編の施工手順書は工事内容別で下記の①、②、③に分かれています。
 ※マルコシリーズの2・3枚引違い戸(上吊)、2枚引込み戸(上吊・連動)は共通編をご覧ください。
 ※本書の準耐火仕様とは、ご注文の際に当社の「準耐火仕様」を選択した場合に限ります。

①木工事

- ①-1.ステルス枠・標準仕様 / ①-2.ステルス枠・準耐火仕様
 ①-3.インセット枠仕様

②クロス・塗り壁工事 (ステルス枠・インセット枠共通)

③扉・金物の取

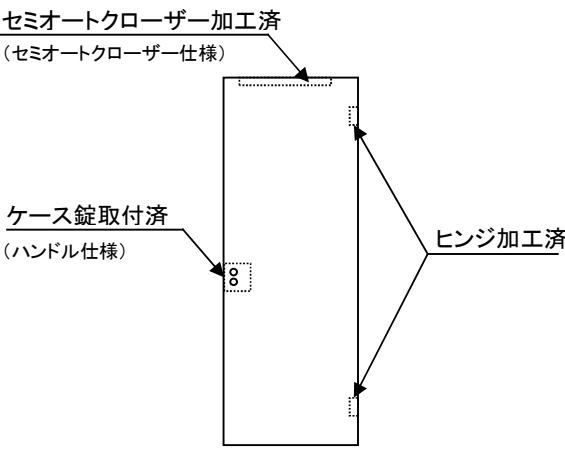
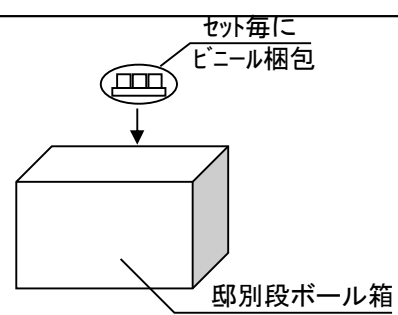
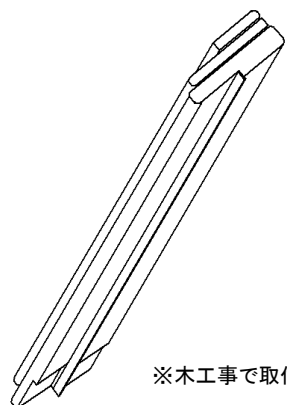
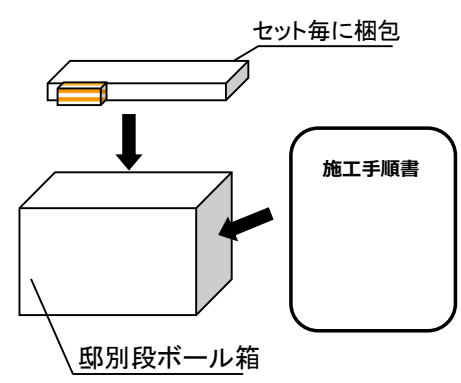
(ステルス枠・インセット枠共通)

- ③- 1. 片開き戸、親子戸
 ③- 2. 片引き戸(上吊)、ポケット戸(上吊)、2枚引違い戸(上吊)
 ③- 3. 2・3枚引込み戸(上吊・連動)、3枚引違い戸(上吊・連動/非連動)
 ③- 4. 片引き戸(床付レール)
 ③- 5. Karcher製ロック無しハンドル
 ③- 6. Karcher製ロック付きハンドル
 ③- 7. **インワード枠(片開き戸)**

□片開き戸【インワード枠専用】

施工手順書2026/3改訂

□納品形態

扉と同時に納品されるもの	
建具	建具金物箱
<p>セミオートクローザー加工済 (セミオートクローザー仕様)</p>  <p>ケース錠取付済 (ハンドル仕様)</p> <p>ヒンジ加工済</p>	<p>セット毎に ビニール梱包</p>  <p>邸別段ボール箱</p>
下地枠と同時に納品されるもの	
下地枠	下地金物箱
 <p>※木工事で取付け</p>	<p>セット毎に梱包</p>  <p>邸別段ボール箱</p> <p>施工手順書</p>



□片開き戸【インワード枠専用】

■ 製品及び同梱内容の確認

- 製品を開梱して、同梱品に間違いがないか確認をお願いします。

□金物箱の梱包内容

建具金物箱		
<p>ハンドルセット</p>  <p>1セット</p>	<p>錠+錠カバー+軸アタッチメント</p>  <p>1セット</p>	
<p>面付隠し丁番</p>  <p>本体</p> <p>取付ビス(皿タッピングM4×20)</p> <p>面付隠し丁番</p>  <p>カバー</p> <p>面付隠し丁番</p>  <p>ディスタントプレート</p> <p>取付ビス(皿タッピングM4×20) ※インセット枠の場合M4×40</p> <p>面付隠し丁番</p>  <p>カバー</p> <p>2セット</p> <p>2セット</p>	<p>吊り込み治具</p>  <p>1セット</p>	<p>ボトムストッパー(別売)</p>  <p>1セット</p>
<p>セミオートクローザー</p>  <p>1セット</p>	<p>ハンドル</p>  <p>1ヶ(ビス2本付)</p> <p>1セット</p>	

下地金物箱		
<p>ラッチ受け</p>  <p>ビス2本</p> <p>1セット</p>	<p>調整ビスセット</p>  <p>28本</p> <p>スペーサー1ヶ付</p> <p>1セット</p>	

□片開き戸【インワード枠専用】

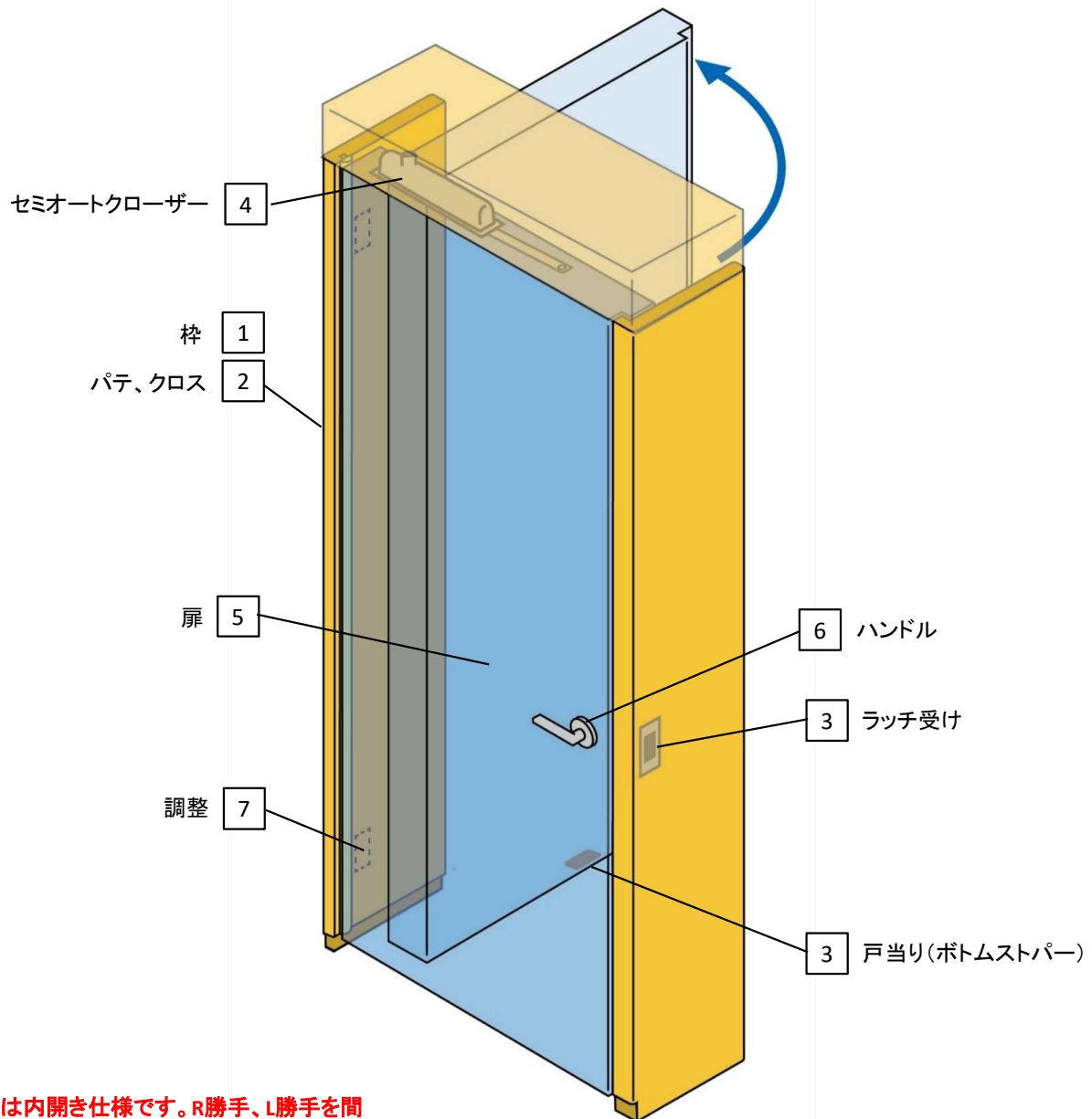
■ 施工に関する流れ

全体図

注意！

扉が脱落するおそれがあります。90°以上扉を開かないで下さい。

必ず適正な位置に戸当りを取付けて下さい。



注意！

この扉は内開き仕様です。R勝手、L勝手を間違わない様にして下さい。

□片開き戸【インワード枠専用】

0 施工前の確認

下地枠を取り付ける前に、躯体側に木下地が隙間なく平滑に入っているか、開口部の巾・高さ寸法を確認してください。

1 枠

1-1 ヒンジ用下穴

枠取付用とは別に下穴があります。扉吊り込みまで塞がないで下さい。

1-2 縦枠下地

①縦枠下地を柱にあてレーザー等で立ちを見ながら、同梱の調整ビスで取付けてください。

※ビス頭の飛び出しは厳禁です。

②取付の際に、クリアランススペーサー(調整ビスに同梱)を柱と枠の間に入れながら、調整ビスを締めてください。

※柱と縦枠下地のクリアランスは2mmが標準設定です。

③取付・調整後、縦枠下地と柱の間にクサビ、又はパッキン(現場手配品)を接着剤併用(表裏塗布)にて差込み、縦枠下地が動かないようガッチリ固定してください。

2 パテ、クロス

2-1 パテ

縦枠と石膏ボードのジョイント部にメッシュテープを貼り、パテ等の下地処理を行ってください。

下地パテ、仕上げパテを適正な厚みで施工してください。

2-2 クロス

下地処理が完了した後でクロスを貼ってください。

入隅出隅部は、クロスを過度な力で斜めに引っ張りながら貼るとクロスよれの原因となります。

2-3 見切り材の取付け

クロスが乾いたら吊元側に見切り材を取付けます。取付け向きに注意してください。

3 ラッチ受け

クロスが乾いてからラッチ受け金物の加工部分にカッターで切り込みを入れ、ラッチ受け金物をに取付の際、クロスは巻込んでください。

4 扉、戸当り

注意！

戸当りは必ず取付けてください。

・ボトムストッパーと、セミオートクローザーのアームは吊り込み前に扉側に取付けます。

・吊り込み用治具を入れて吊り込みます。ヒンジ取付用下穴を利用して仮止めします。

5 ハンドル

各部緩みなく取り付けます。

6 セミオートクローザー

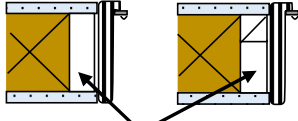
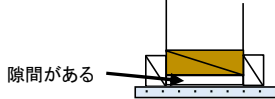
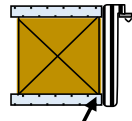
扉上端にアームを取付けます。天井にセミオートクローザー本体を取付けた後に扉を吊り込み、アームを本体と連結

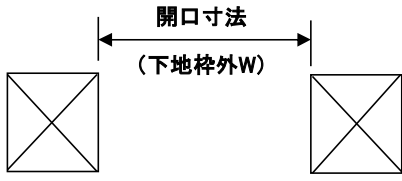
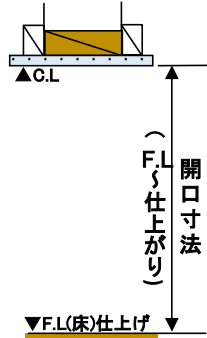
7 調整、仕上げ

建付け調整後、ヒンジとコンシールドストッパーの天井側を固定したら、カバーを付けて完了です。

0 施工前の確認

□ 開口部の確認

開口部(躯体側木下地)の確認			
<p>下地枠を取り付ける前に、躯体側に木下地が隙間なく平滑に入っているか確認をしてください。</p>	 <p>縦枠 下地</p> <p>隙間がある</p>	<p>下地枠の裏側部分には必ず木材を全面に入れておいてください。</p>	
	×		○
	 <p>隙間がある</p>		 <p>縦枠 下地</p> <p>隙間なく平滑</p>
	×		○
<p>ポイント</p> <p>※躯体側の木下地(柱・まぐさ等)の水平・垂直・前後の倒れ・ねじれ等がないか、水平器等で十分に確認してください。</p> <p>※上枠下地が無い納まりの場合でもクロス・ヒビを防ぐために木下地は隙間なく平滑に入れてください。</p>			

開口部(寸法)の確認		
<p>下地枠を取り付ける前に、開口部の巾・高さ寸法を確認してください。</p>	 <p>開口寸法 (下地枠外W)</p>	 <p>開口寸法 (F.L.仕上がり)</p> <p>▲C.L.</p> <p>▼F.L(床)仕上げ</p>
	<p>【巾寸法】 開口寸法 (= 下地枠外W)</p>	
<p>ポイント</p> <p>※開口寸法は邸別の納まり図でご確認ください。</p> <p>※納まり図の高さ寸法はF.L(床仕上げ面)からの寸法となっているので注意してください。</p>		

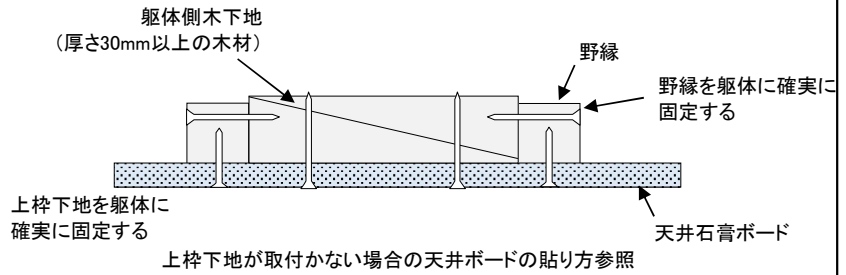
1 枠

□ 上枠下地の取付

上枠下地について

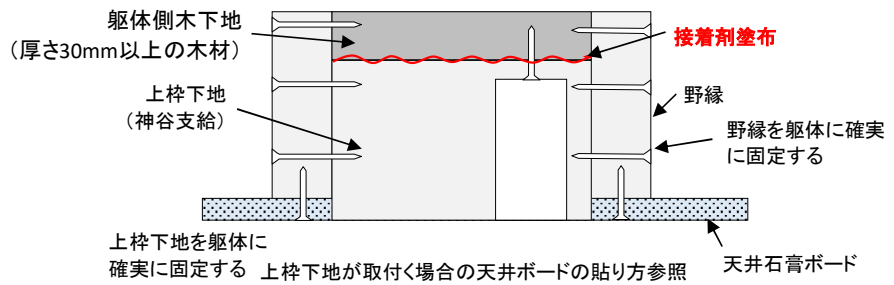
<ハンドル仕様>

上枠下地(神谷支給品)はありませんが、躯体側木下地として30mm以上の木材を施工し、石膏ボードを継ぎ目なく貼り伸ばしてください。



<セミオートクローザー仕様>

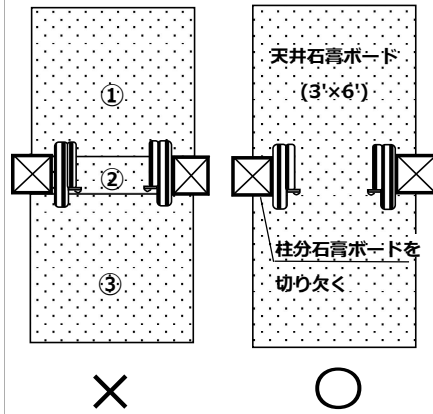
上枠下地(神谷支給品)を使用し、躯体側と木下地を緊結してください。また、石膏ボードは上枠下地に突き付けて施工してください。



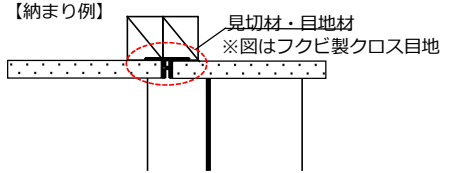
□天井ボードの貼り方、上枠下地取付時の注意点

注 上枠下地が取付かない場合の天井ボードの貼り方

クロスよれの原因となりますので開口上部の天井石膏ボードの貼り方には注意が必要です。
 ※特に開口部直上に梁があり、右図ボード②を梁に直接留め付け、右図ボード①③を際野縁に留め付ける場合、動きが出やすくなります。



天井の石膏ボードは開口部でのジョイントを避ける



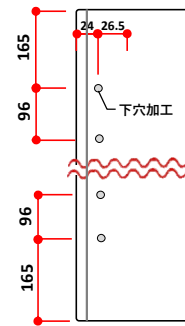
天井の石膏ボードにジョイントができる場合は、目地材・見切材を使用するのが有効です

注 縦枠【ヒンジ用下穴保護について】

注意！
 吊元枠には枠取付用の下穴とは別に、ヒンジを取付ける為の下穴が6か所あります。
 下穴はパテやクロスで埋めないで下さい。
 ヒンジを取付ける直前まで竹串などを指し混んで下穴を保護して下さい<ヒンジ用下穴保護例>

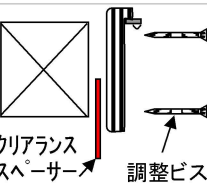


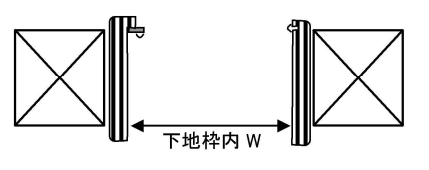


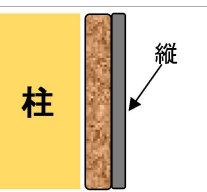
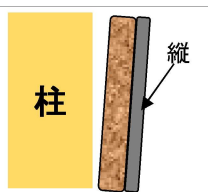
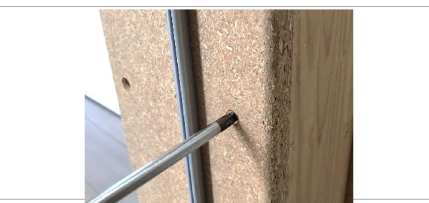

<ヒンジ用下穴位置>



1 枠

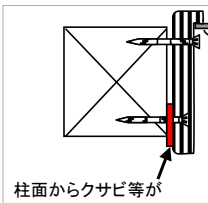
□ 縦枠下地

縦枠下地の取付			
<p>縦枠下地を壁厚(柱)の中央にあてレーザー等で立ちを見ながら、同梱の調整ビスで取付けてください。</p> <p>※クロス・塗り壁で仕上げますのでビス頭の飛び出しは厳禁です。</p>	 <p>調整ビス 開き側</p>	 <p>調整ビス 1mm</p>	 <p>調整ビス頭の飛び出し</p>
	調整ビスにより枠を固定	縦枠下地の見込寸法は壁厚+1mmずつのデリ	×
<p>取付の際に、クリアランススペーサー(調整ビスと同梱)を柱と枠の間に入れながら、調整ビスを締めてください。</p> <p>※柱と縦枠下地のクリアランスは2mmが標準設定です。</p>	 <p>クリアランススペーサー 調整ビス</p>	 <p>2mm</p>	
	クリアランススペーサーを挟む	2mmのクリアランスを保ち調整ビスで取付	縦枠下地の下部裏側に2mm厚パッキン材取付済
<p>【注意事項】</p> <p>縦枠下地を含む全ての下地枠を取付け後、縦枠下地の調整と固定をする必要があります。</p> <p>後頁16ページの「縦枠下地の調整」と「縦枠下地の固定」をご確認ください。</p>			
ボイント	<p>※縦枠下地の下部裏側にあらかじめ2mmのパッキン材がついてますので、枠内寸法が確保できない場合以外は外さないでください。</p> <p>※クリアランススペーサーが抜けな場合は、手動ドライバーにて少しゆるめてから外してください。</p> <p>※躯体がスタッドの場合は、調整ビスが効かないため、縦枠下地とスタッドの間に必ず木下地(15mm以上)を入れてください。</p> <p>※調整ビスを何度も出し入れすると、ビス穴が広がり、調整が効かなくなりますので、その際は別の所で再度、固定してください。</p>		

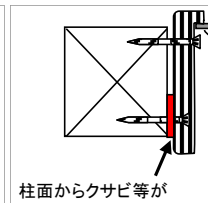
縦枠下地の調整			
<p>開口定規で下地枠内W寸法を確認してください。</p>	 <p>下地枠内 W</p>		
	下地枠内に開口定規をあて開口を確認	下地枠内W	
<p>レーザーを使い、枠の建付けを確認してください。</p>		 <p>柱 縦</p>	 <p>柱 縦</p>
		○	×
<p>調整が必要な時は、手動ドライバーを使用し調整ビスで縦枠下地の出し入れを行ってください。</p>		 <p>枠 柱</p>	
	手動ドライバーで枠の建付調整	枠・柱の横断面	

縦枠下地の固定

取付・調整後、縦枠下地と柱の間にクサビ、又はパッキン（現場手配品）を接着剤併用（表裏塗布）にて差込み、縦枠下地が動かないようガッチリ固定してください。



柱面からクサビ等が飛び出している



柱面からクサビ等が飛び出していない

クサビ又はパッキンに接着剤を塗布し縦枠下地と柱をガッチリ固定（クロス・塗り壁のヒビ割れ防止策）

×

○

ポイント
 ※ウォールスルーが並列する場合など、取合により調整ビスが貫通してしまう恐れがある場合は、別途ビス（現場手配品）で取付けてください。
 ※クサビ・パッキンの差込は、ビスとビスの間に入れてレーザー等で立ちを見ながら行ってください。
 ※クサビ・パッキンが柱面から飛び出していると、石膏ボードの取付ができないので、柱面から飛び出さないようにしてください。

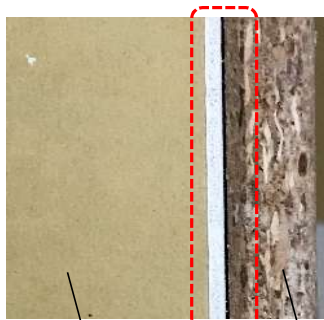
□ 石膏ボード・シンプル巾木の取付

石膏ボードの取付け時の注意点

枠に突き付ける石膏ボードは面をとり、枠との間に隙間が出ないように石膏ボードを取付けてください。

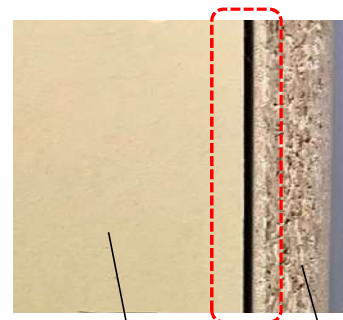
【注意事項】

仕上がりに影響がでる恐れがありますので必ず守ってください。



石膏ボード

下地枠



石膏ボード

下地枠

枠と石膏ボードの隙間無し

○

枠と石膏ボードの隙間有り

×

石膏ボードの面取有り

○

石膏ボードの面取無し

×

シンプル巾木コーナー役物・取付け時の注意点

枠の取付・調整、及びクサビ、またはパッキンの固定が終わったら、巾木を接着剤で縦枠下地の下部の切欠き部分にはめ込むように取付けてください。



接着剤全面塗布（推奨：酢ビ系）

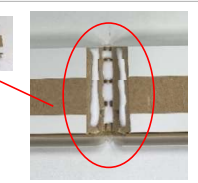


【クロス貼り仕上の場合】
切欠き寸法：7×30



【塗り壁仕上の場合】
切欠き寸法：4×30

下地の欠き込み部分にはめ込む様に取付



【注意事項】 巾木コーナー役物のVカット部も接着剤を塗布してください。※塗布しないと割れ易くなります。

ポイント
 ※出荷時には、シンプル巾木の切欠き加工がされています。
 高さ30mm以上の巾木をご使用の場合は、現場で高さ方向の切り欠きを行ってください。
 ※厚さ7mmを超える巾木（現場手配品）には対応していません。

2 パテ、クロス

□ 下地枠・クロス施工時の注意点

縦枠【ヒンジ用下穴保護について】

注意！

吊元枠には枠取付用の下穴とは別に、ヒンジを取付ける為の下穴が6か所あります。

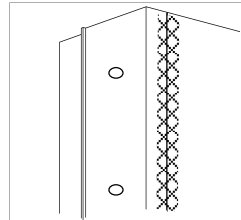
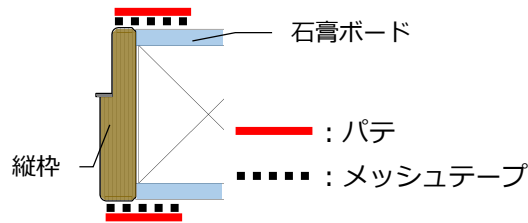
下穴はパテやクロスで埋めないで下さい。

ヒンジを取付ける直前まで竹串などを指し混んで下穴を保護して下さい。

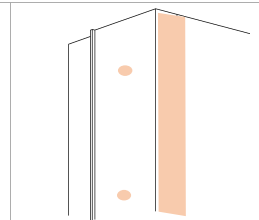


縦枠【袖壁納まりの場合】

- ① 縦枠と石膏ボードのジョイント部にメッシュテープを貼り、パテ等の下地処理を行ってください。

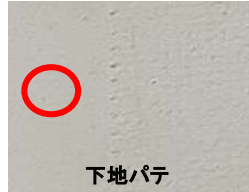


ジョイント部をまたいでメッシュテープを貼る

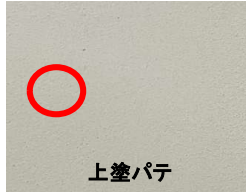


ビス穴、メッシュテープ部、及び縦枠の木口面全体にパテを塗る(下塗り、上塗り)

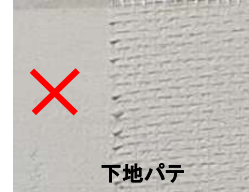
<パテ塗り厚の目安>



下地パテ



上塗りパテ



下地パテ

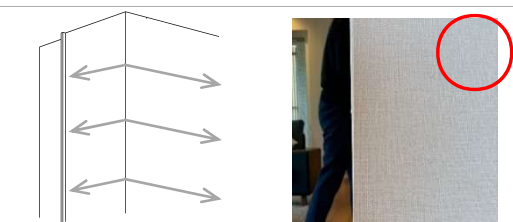


上塗りパテ

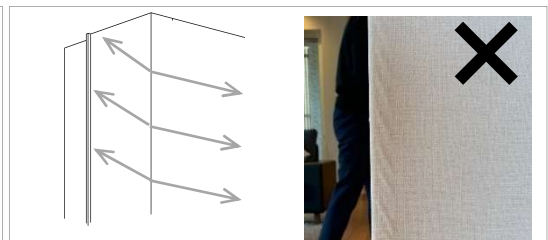
下地パテを塗布した時点でメッシュテープの繊維が隠れ、上塗りパテで完全に隠れる状態が適量です。

メッシュテープの繊維が浮き出る状態はパテの量が不足しています。

- ② 下地処理が完了した後でクロスを貼ってください。



枠に巻き込む際、クロスは上下左右余裕をもったサイズでまっすぐ貼る

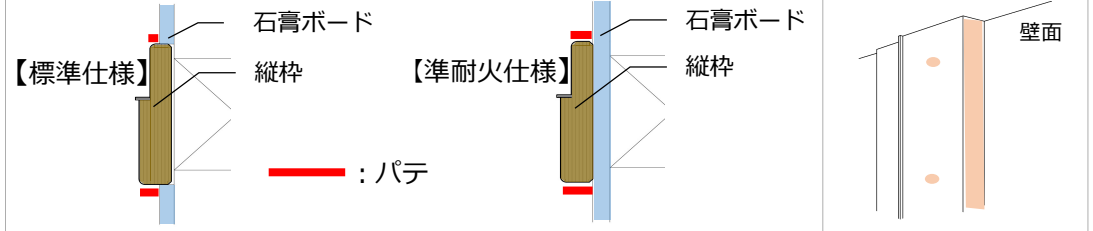


枠に巻き込む際、クロスを過度な力で斜めに引っ張りながら貼るとクロスよれの原因となります

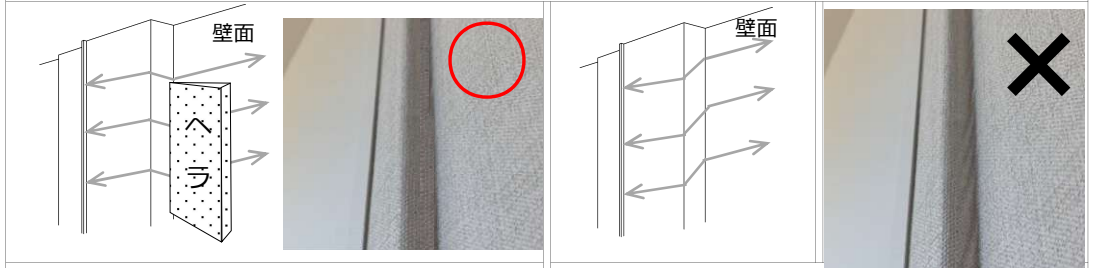
- ポイント**
- ※ヒンジ取付用下穴が開いています。パテ処理しないで下さい。
 - ※メッシュテープ貼り→パテ下塗り→パテ上塗りを推奨します。
 - ※縦枠下地の木口面全体にパテを塗ってください。

縦枠【入隅壁納まりの場合】

① 縦枠の入隅部は貼りづらく、クロスを貼る際にクロス面積が大きい壁面のクロスに引っ張られやすくなりますので注意が必要です。
縦枠の木口面にパテ等を塗り、クロスを貼る際は縦枠の木口面をヘラ等であてながら壁面のクロスに引っ張られないように、まっすぐ貼ってください。



ビス穴、縦枠の木口面全体にパテを塗る
(木口面の見附寸法が小さく、パテが塗りにくい箇所はコークボンドを塗る)
※但し、クロス厚が薄い場合はコークボンドで不陸が出ないようにご注意ください



枠の入隅部に貼る際、クロスは上下左右余裕をもったサイズで木口にヘラ等をあてながら壁面のクロスに引っ張られないようにまっすぐ貼る

枠の入隅部に貼る際、クロスを過度な力で斜めに引っ張りながら貼ると壁面のクロスに引っ張られ、クロスよれの原因となります

ポイント

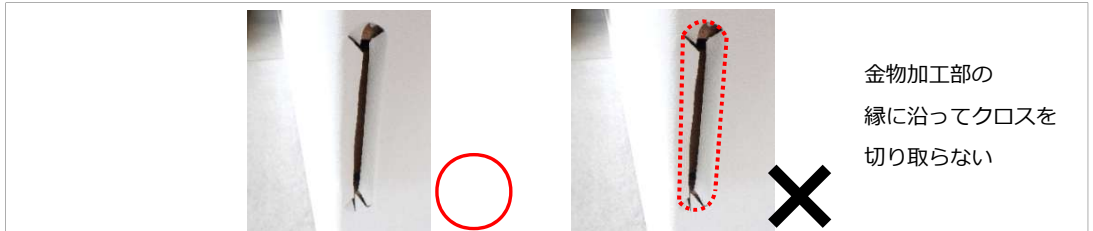
金物加工部分

① 金物加工部分をまたいでクロスを貼り、切り込みを入れ、クロス巻き込んで金物を取付けてください。



金物加工部分をまたいでクロスを貼る

金物加工部分のクロスに切り込みを入れ、クロス巻き込んで金物を取付ける



金物加工部の縁に沿ってクロスを切り取らない

金物加工部分のクロスは縁に沿って切り取らず、加工部に巻き込んで金物を取付ける

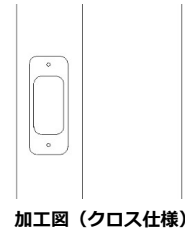
ポイント

※金物加工部分のクロスは縁に沿って切り取らず、加工部に巻き込んで金物を取付けると仕上がりがきれいです。

3 ラッチ受け

枠側ラッチ受け金物の取付

クロスが乾いてからラッチ受け金物の加工部分にカッターで切り込みを入れ、ラッチ受け金物をに取付の際、クロスは巻込んでください。
※インセット枠仕様は取付いた状態で納品されます。

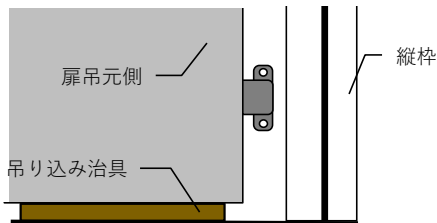


加工図（クロス仕様）

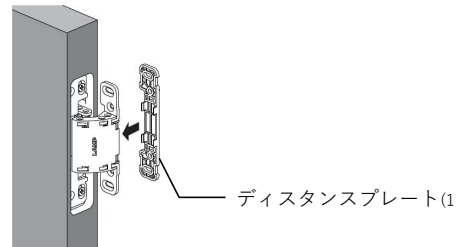
4 扉

枠に隠し丁番取付

①吊り込み治具に扉を乗せる

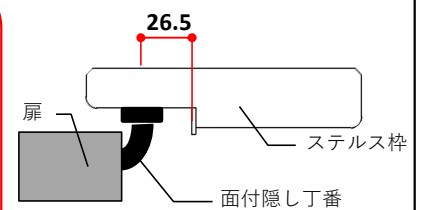
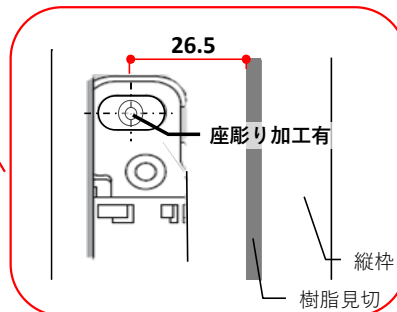
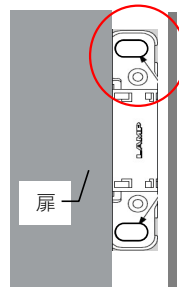
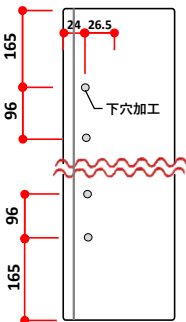


②ディスタンスプレートを取付る



③隠し丁番を縦枠に寄せて取付位置の確認

<ヒンジ用下穴位置>



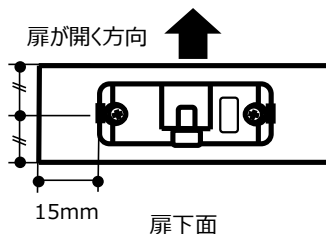
注意！ 枠側の下地穴加工はクロス施工時にパテ埋めしないで下さい。正しい位置に扉が吊り込めなくなります。

注意！ 必ず戸当りは取付けてください。また、取付位置は90°以下に設定してください。

ボトムストッパー取付位置について

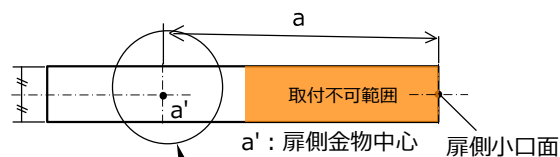
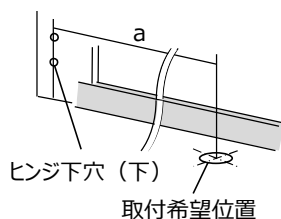
<扉側金物の取付位置>

- 扉下面に扉側金物を取付けます。
- 戸先側から15mm離れた位置が推奨位置となります。
- 扉厚み方向の中心に取付けます。

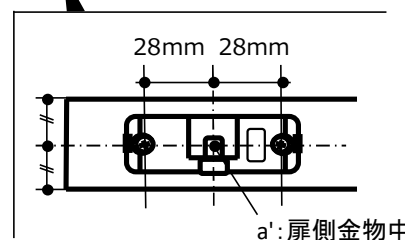


<任意位置>

- 取付希望の位置と枠側ヒンジ下穴の距離を計測 (a) します。
- aの寸法を扉下端に移します。扉側小口面から、扉厚み中心線に (a') を付けます。
- a'を中心に左右28mmの所に印を付けます。
- 扉下面に扉側金物を取付けます。

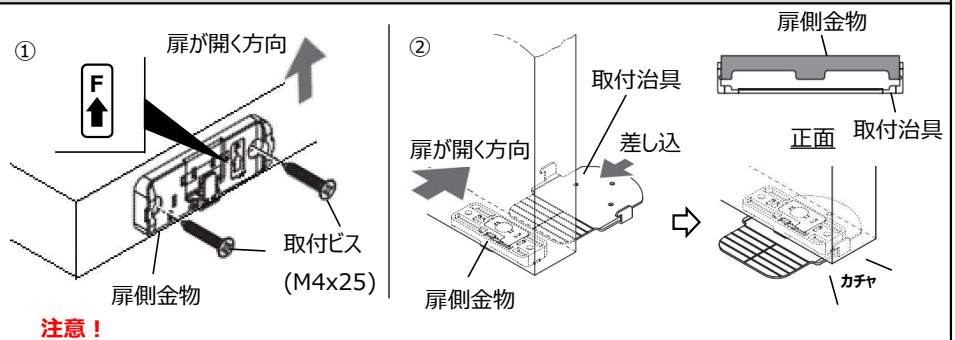


注意！
ハンドルの高さ等を加味した位置にしてください。



ボトムストッパーの取付

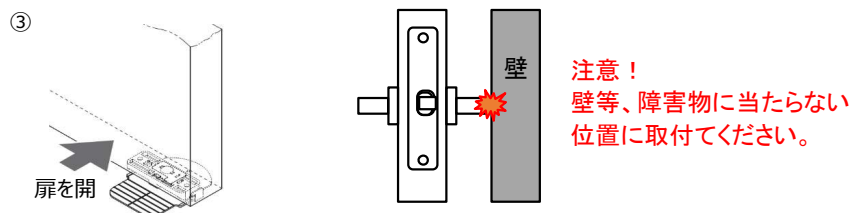
① 扉の吊り込み前に扉側金物を取付
ます。“→F”マークを扉が開く方向
へ合わせ下穴を開け、同梱ビスで取
付けます。
② 扉を吊り込み、図のように扉側金
物に取付治具を扉の下から差し込み
ます。



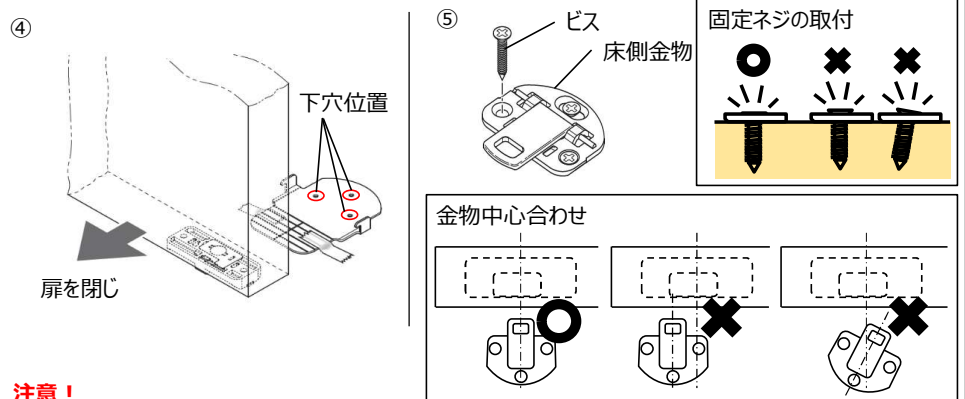
注意！

扉側金物に治具が入らない、浮いてしまう場合は扉の上下調整をしてください。

③ 取付治具を扉側金物に引っ掛けた
まま扉を止めたい位置まで開きま
す。



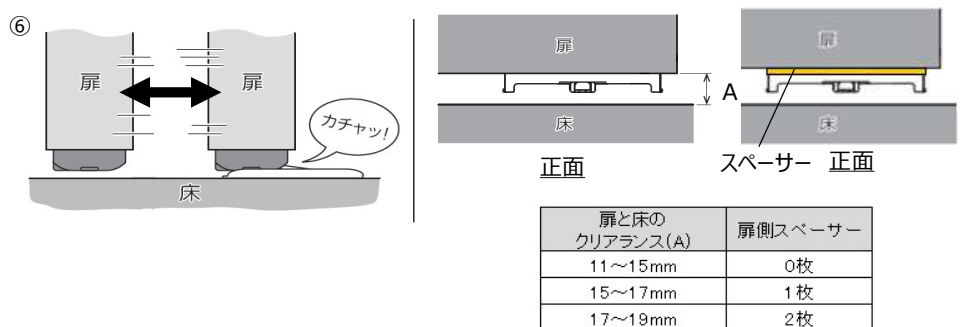
④ 取付治具の位置がずれないようにマ
スキングテープで固定し手でしっかり
押さえ、扉を引きます。
取付治具の3か所の丸穴位置に印を
付け下穴を開けます。
⑤ 治具を外し下穴に床側金物を合わ
せて、同梱ビス(M3x16)で取付けま
す。



注意！

・固定ネジの頭が金具上面から飛出さない様の下さい。樹脂カバーが取付られなくなります。
・扉と床の金物の中心がずれていると正しく機能しません。中心を合わせて取付けてください。

⑥ 取付が完了したら扉を2～3回開
閉し、扉側金具と床側金物のキャッ
チ機能が正常に作動するか確認しま
す。
右表で扉と床のクリアランス(A)を
確認し、必要に応じて、扉側スペー
サー(2mm/枚)を取付けてくださ
い。
標準は、A: 11～15mmとなります。



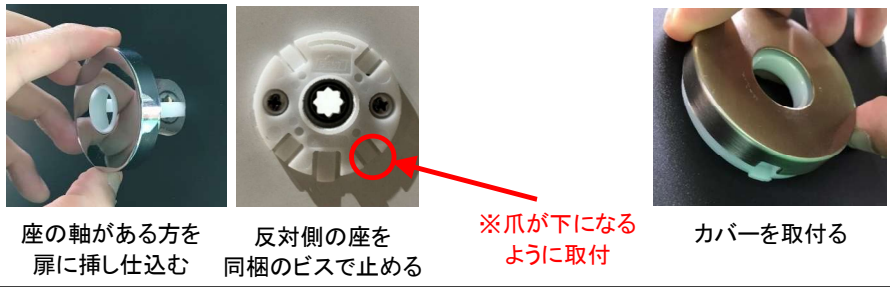
注意！

床との距離が大きいと正常に機能せず壁等に当たる可能性があります。

5 ハンドル

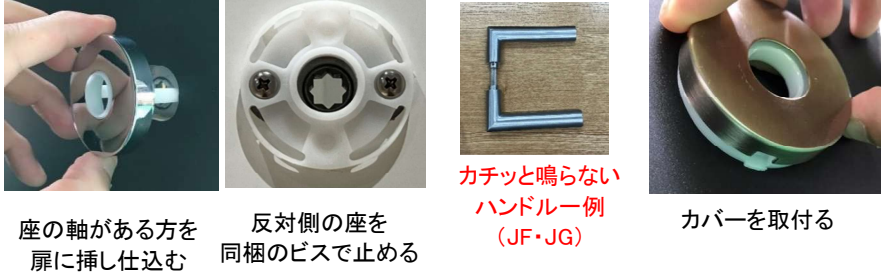
ハンドルの取付 (ハンドル仕様)

【座の取付け①】
 取付ける際は爪がある部分が下に来るように取付けてください。
 座のビスの締込みは「カチッ」と鳴った後、更に約半回転を目安に締込んでください。



座の軸がある方を扉に挿し仕込む 反対側の座を同梱のビスで止める ※爪が下になるように取付 カバーを取付ける

【座の取付け②】
 ハンドルの種類によっては「カチッ」と鳴らない締め込みタイプのももありますので締め込み過ぎにご注意ください。ハンドル (JF・JG)



座の軸がある方を扉に挿し仕込む 反対側の座を同梱のビスで止める カチッと鳴らないハンドル例 (JF・JG) カバーを取付ける

ハンドルを座に差し込み、+ネジを締めてハンドルを固定します。
六角ネジは触らないでください。



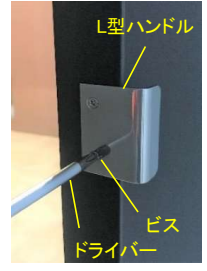
芯棒がついている側の六角ネジは外さない 両側から押し付けながら手動+ドライバーでネジ締め

【錠の取付け】
 錠の軸芯を入れる穴に白色のアタッチメントを取付けてください。
 錠金物は鍵をかける状態に金物を回すと取付け穴が見えます。
 カバーは「パチッ」となるように取り付けてください。

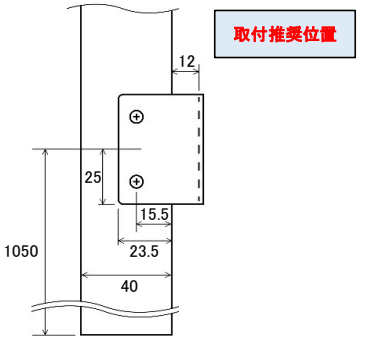


ハンドルの取付 (セミオートクローザー仕様)

ハンドルをA面側(クローザー取付と逆側)へ取付けます。
 ハンドルを取付ける位置を決め、φ2mmの下穴加工し、同梱のビスでハンドルを取付けてください。



ビス取付け

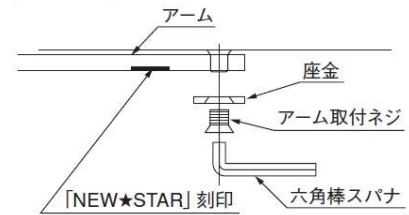
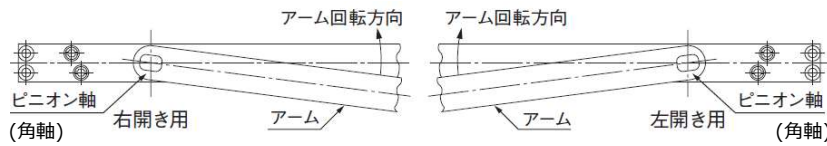


6 セミオートクローザー

セミオートクローザーの取付

【作業前の確認】

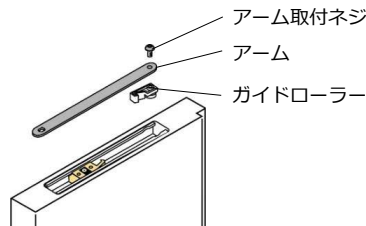
セミオートクローザー本体には左右が異なります。取付け前に確認ください。
アーム表面の「NEW★STAR」刻印が下側になるように取付けて下さい。



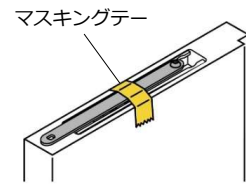
①扉を吊り込む前に扉上端戸先側のガイドレールにガイドローラーをはめ込み、アームをアーム取付ネジで取付ける。取付けたアームはマスキングテープで扉に固定しておく

注意！
ストッパーの位置は絶対に変更しないで下さい。

ガイドローラーの向きに注意！



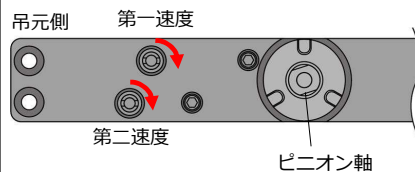
ガイドレールの端部に有る溝からガイドローラーを取付ける



アームはマスキングテープで固定

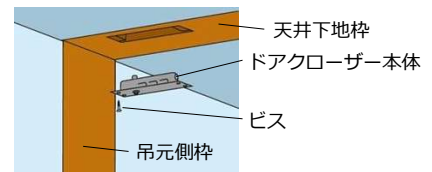
②ドアクローザー本体を取付ける前に調整用バルブを全閉し、天井の上枠下地に取付ける。

バルブの閉め過ぎに注意！



調整用バルブを全閉にする。

ドアクローザー本体の向きに注意！

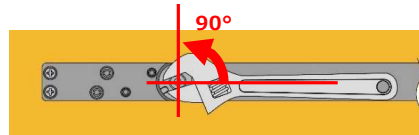


ピニオン軸を吊元側になる様に天井下地枠に本体を組付ける

③ドアクローザー本体のピニオン軸をモンキーレンチで90°程度回転させる。モンキーレンチを外し扉側のアームと連結させ、扉をその位置で固定したら、アーム取付ネジで固定する。

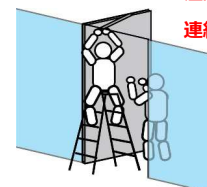
注意！
本作業は必ず2名で行ってください。アームに挟まれる等の重大事故に繋がります。

注意！
ピニオン軸を傷つけない様にする。



ピニオン軸をモンキーレンチで90°回転させる。

注意！
連結したら扉を押さえる。

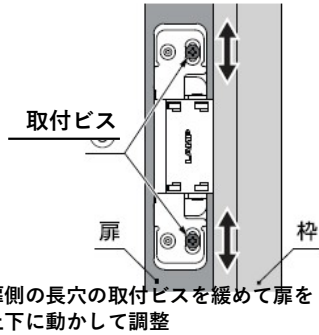


アームをピニオン軸と連結し、取付ネジで固定する。

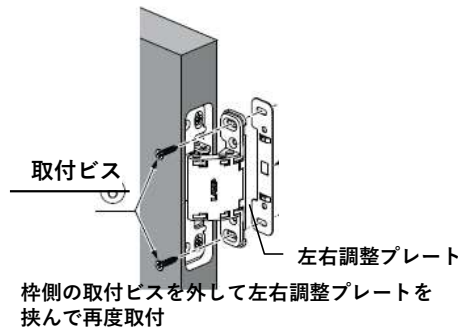
7 調整、仕上げ

調整

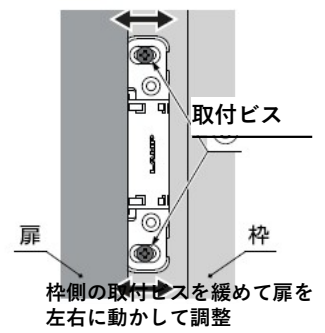
上下調整(±2mm)



左右調整(+1mm)

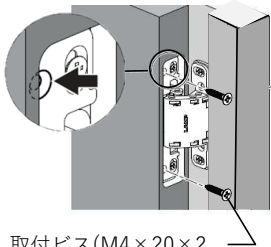


前後調整(±3mm)

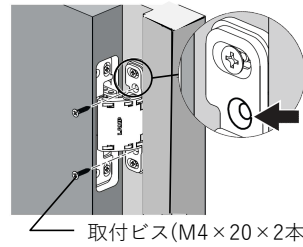


隠し丁番の固定

扉側に同梱の取付ビスで固定

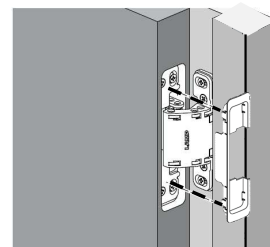


枠側に同梱の取付ビスで固定

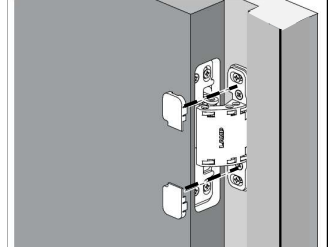


カバーの取付

扉側



枠側



ラッチ受けの調整

ラッチ受けの調整は、建具の吊り込み後に手動ドライバーにて前後の調整を行ってください。
上下のビスを緩めて内部のラッチ部分を前後に動かして調整してください。
注意：過度な衝撃が掛かると位置がずれる事があります。



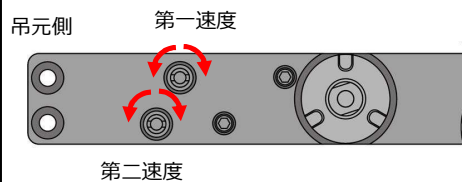
【調整範囲】

手前方向-2.5mm(手前方向)
後 方向+2.5mm(後 方向)

セミオートクローザーの調整

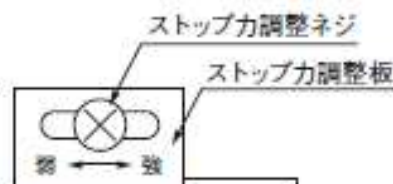
開閉速度調整

吊り込む際に全閉状態になっていません。
速度が速くなる方向へ少しずつ調整し、扉がゆっくりと閉扉する様調整して下さい。



ストップカの調整

- 扉を外し上端のストップ調整ネジを緩める。
- ストップカ調整板を好みの方向へ移動させる。
- 調整ネジを締付た後、扉を吊り込む。



こんなときは

現象	考えられる原因	点検箇所	対処方法
ドアの閉じる速度が徐々に速く、又は遅くなった	→ 季節の温度変化など	→ 閉扉速度調整バルブ	→ 閉扉速度調整方法を参照願います。
ドアの閉じる速度が急に速くなった	→ 油漏れ	→ ドアクローザ本体	→ まず、お取り扱いの建築会社様、工務店様、又は販売店様に交換依頼願います。
ドアの閉じる速度が急に遅くなった	→ 油の流れが悪い	→ 閉扉速度調整バルブ	→ 閉扉速度調整方法を参照願います。
閉じる際「バタン」と大きな音がするようになった	→ ネジの緩み	→ 取付ネジ	→ ネジを締付けて下さい。
	→ 油漏れ	→ ドアクローザ本体	→ まず、お取り扱いの建築会社様、工務店様、又は販売店様に交換依頼願います。
ドアが所定の開放位置で止まらなくなった(ストップ付)	→ ストップネジの緩み	→ ストップ装置	→ ストップ角度調整方法を参照願います。
ドアがスムーズに閉まらなくなったり異音が生じるようになった	→ ネジの緩み	→ 取付ネジ	→ ネジを締付けて下さい。
	→ 1,2速のバランスが悪い	→ 閉扉速度調整バルブ	→ 閉扉速度調整方法を参照願います。